（仮称）健康まちづくり戦略（事業番号 41）

～市民一人ひとりが可能性を高めきらりと輝ける（ウェルビーイング）まちづくりを目指して～

「ソーシャル・インクルージョン」と「生活の質」

国立市は、「**ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）**」の理念のもと、市民一人ひとりの生活に寄り添うことを基本に行政を進めてきました。この理念の具体化にあたっては、市民一人ひとりの可能性を相互に尊重し、その可能性をいかに高めていくかということが求められています。

例えば、この間、国立市は福祉交通に関連して、ケイパビリティ（潜在能力）アプローチによる研究を積み重ねてきました。そこでの議論を通じて見えてきたものは、市民一人ひとりがそれぞれの生活上の困難を抱えながらも、**様々な選択をしながら生活することができる自由（機会）をどのようにすれば創っていくことができるのかという「生活の質」への問いかけ**でした。そして、そうした社会、環境を社会的共通資本として創出していくことこそが、行政の大きな役割であるということを再認識しました。

コロナ後の社会と「ケア」「健康」

新型コロナウイルス感染症拡大によって生じた様々な状況は、国立市がこれまで重視してきた「ケア」とともに「健康」の重要性を普遍的な価値として改めて再確認するきっかけとなりました。そして、「ケア」と「健康」を軸としたまちづくりを、最初からより多くの方が利用しやすい環境を作るという「ユニバーサルデザイン」の視点から一体的に進めていくことで、市民一人ひとりの可能性を高めていくことにつながると考えています。

国立市はこの 10 年、「**地域包括ケアのまちづくり**」を唱え「ケア」を軸としたまちづくりを行ってきました。これを単に高齢社会に対応することだけを意味するものと位置付けるのではなく、地域全体として福祉のまちづくりを進め、ひとびとの生活を保障する「**社会構想**」としての意味をもつものとして捉え、実践してきたことをさらに発展させていきます。

一方、「**健康」の定義は、WHO 憲章によると「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態であること**」とされていますが、ありたい状態像はひとそれぞれ異なります。それは行政としてあるひとつの状態を強制するものではなく、実際の施策展開にあたっては、福祉の現場で問われ続けている「意思決定支援」と同様に本人の意思に基づくことが重要です。

総合的な『健康まちづくり戦略』

これまでの市政とコロナ禍の経験を踏まえ、国立市は、次の 10 年に向けて、ハード・ソフトを含めた**総合的な「健康まちづくり」**を推進し、つながりのあるまち、楽しく喜びにあふれるウォーカブルなまち、豊かな食と文化を志向するまちの実現をめざして、まちとしての魅力を一層高めていきます。

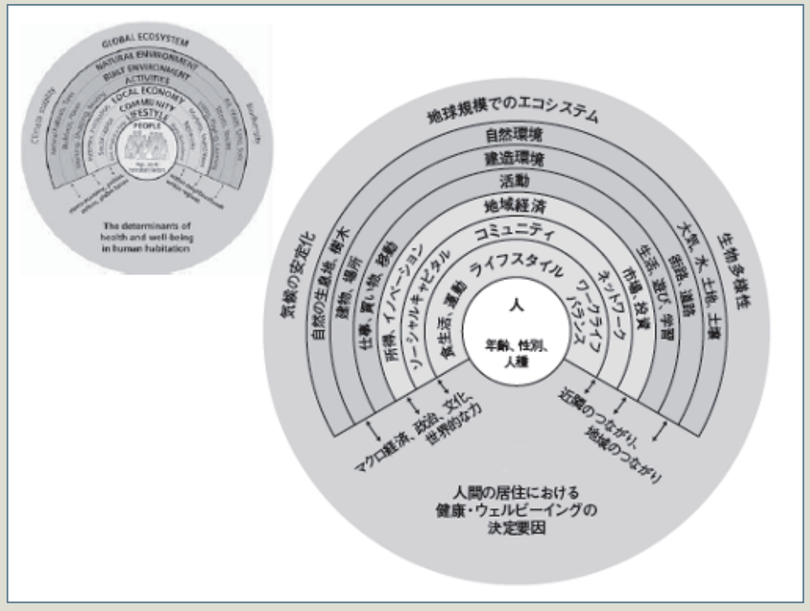
そして、「**健康まちづくり戦略**」として、ターゲットを意識した効果的な事業展開と市民一人ひとりが自ら選択し生活を充実させることのできる環境づくりを具体的に定めていきます。

健康まちづくり戦略における目指すべき方向性

Ⅰ．つながりのあるまち（ Community & Activity ）

Ⅱ．楽しく喜びにあふれるウォーカブルなまち（ Walkability ）

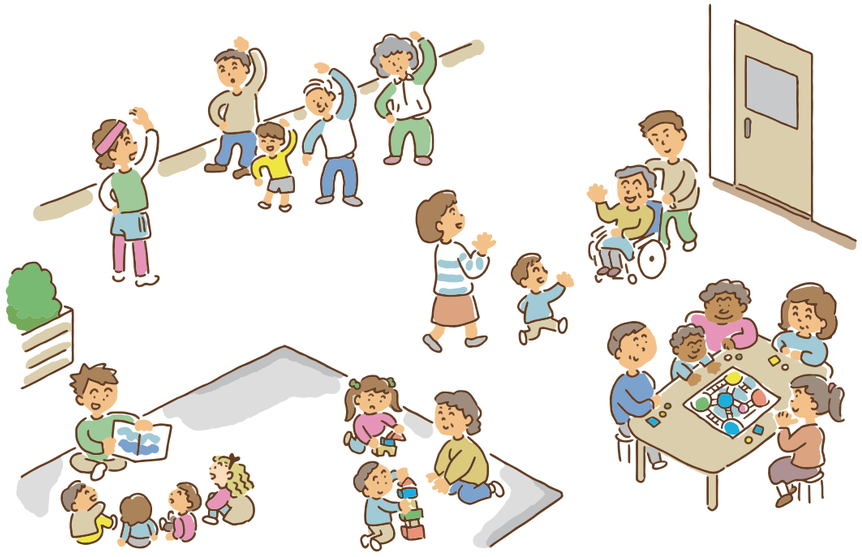
Ⅲ．豊かな食と文化を志向するまち（ Eco-Life Style、Slow Life ）



健康（ウェルビーイング）の決定因子の見取り図

（出典）ウェルビーイングの実現に向けた都市づくりと自治体マネジメント（東洋大学国際学部教授・沼尾波子）
Barton and Grant2006 による見取り図（WHO Regional Office for Europe Urban planning(2020),p29）を翻訳左上は原図

Ⅰ つながりのあるまち（Community & Activity）



人が生活していく上で「つながり」は欠かせないものです。新型コロナウイルス感染症の拡大は、あらゆる世代において、その「つながり」を損なうものでした。また、今後、高齢社会がさらに進んでいくと予測されており、地域を支える担い手を確保していくことが重要であるとともに、特に高齢期においては、人とのつながりの中で社会的な役割を持つことが健康の維持・向上に有効とされています。

コロナ後の社会を見据え、市民や団体、事業者などが相互につながり、活動できる環境を整えていきます。

主な政策事業（令和４年度）

- 矢川複合公共施設整備事業
- 旧国立駅舎運営事業
- 富士見台地域まちづくり事業
- 公衆浴場を活用した介護予防事業
- 市民・団体つながり創生事業

既存の取組事例

Ⅰ－1 介護予防自主活動グループ

事業概要：市内で 100 グループ以上が活動

Ⅰ－2 子どもの居場所づくり事業補助金

事業概要：

R2 実績　9 団体へ補助金交付

延べ参加者数 8,855 名

Ⅰ－3 くにたち未来共創拠点矢川プラス

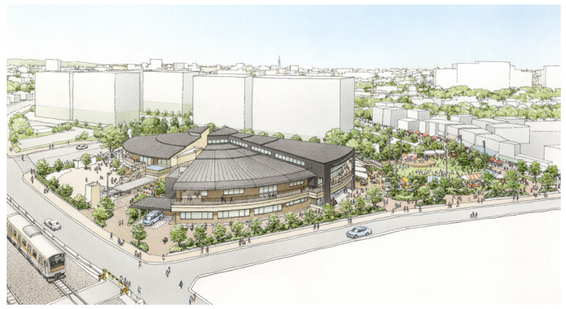
事業概要：

幼児教育の推進、

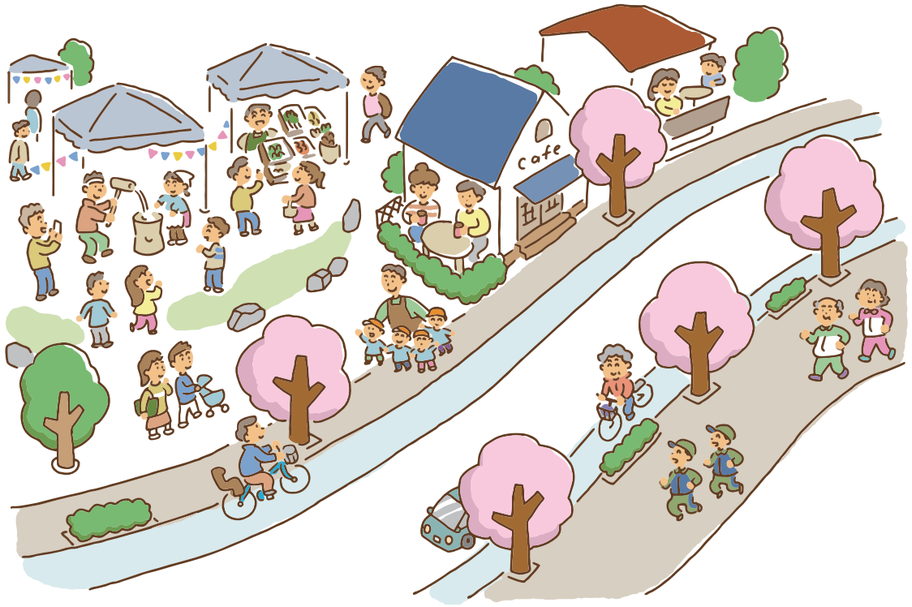
子育て・子育ち支援、

多世代交流の拠点として

R5.4 の開設に向けて整備



Ⅱ 楽しく喜びにあふれるウォーカブルなまち（Walkability）



歩くこと（外出すること）は、健康であるための重要な手段の一つです。市民が外出したいと思えるように、魅力ある場所やイベント・事業などを線としてつなげていくことが必要です。

また、その前提として、安心して移動できる環境を確保するため、道路整備や交通環境整備をはじめとする都市づくりと移動の支援を併せて推進します。

主な政策事業（令和４年度）

- 南部地域整備事業
- 旧国立駅舎東西広場等整備事業
- 商店街等新型コロナウイルス感染症対策支援事業
- LINK くにたち事業
- 旧本田家保存活用事業
- 交通安全計画推進事業
- 自転車安全利用促進事業
- 福祉交通検討事業
- 農の営みが残る原風景の保全事業
- シティプロモーション推進事業

既存の取組事例

Ⅱ－1 健康ウォーキングマップ

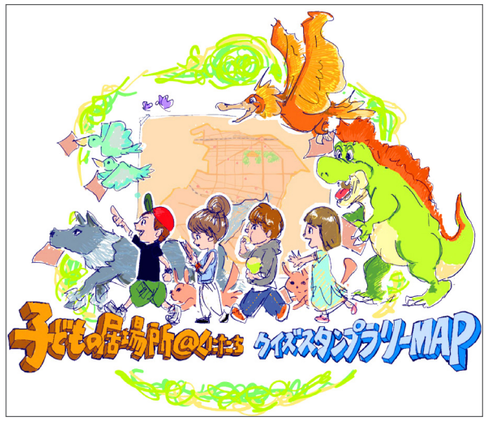
事業概要：全９コースのマップを作製　R2 マップ配布数 14,130 枚

Ⅱ－2 さくら通りの２車線化

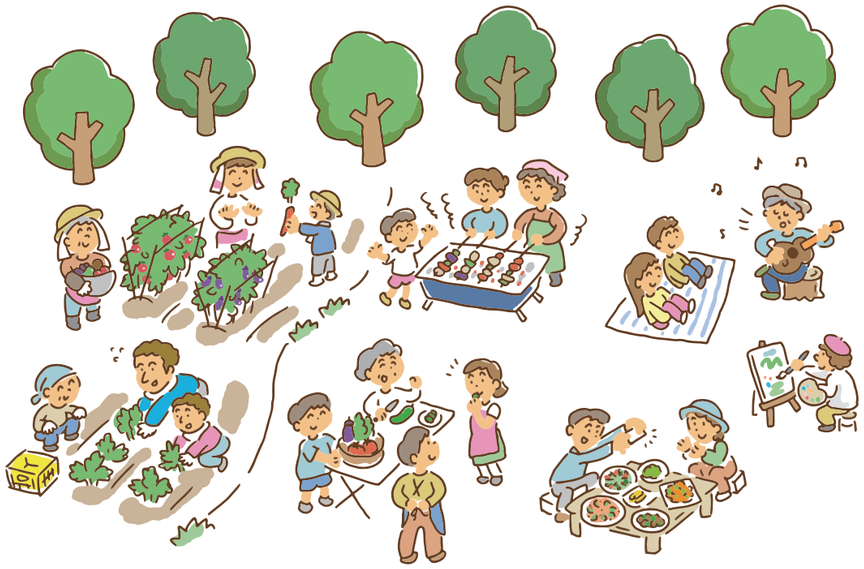
事業概要：
安心して歩けるための
２車線化を実施

Ⅱ－3 子どもの居場所＠くにたちクイズスタンプラリー

事業概要：コロナ禍における児童への体験機会の提供
市内公共施設 16 か所のクイズスタンプラリーを実施
R2 参加者数　342 名



Ⅲ 豊かな食と文化を志向するまち（Eco-Life Style、Slow Life）



食は、身体を作る栄養の面だけでなく、食文化や自然環境、食を通じた人とのつながりなど、健康における様々な分野と密接に関わってきます。また、文化や芸術に触れ、楽しむことも精神的、社会的に満たされた健康な状態にとって必要なものです。

豊かな食や文化を志向することで健康なまちづくりを推進していきます。

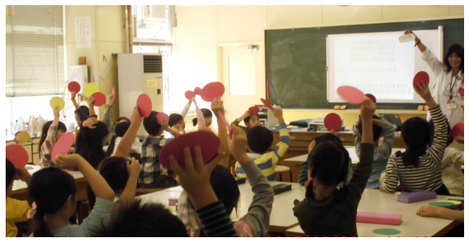
主な政策事業（令和４年度）

- 子ども食堂事業補助金交付事業
- 新給食センター整備事業
- 文化芸術施策推進事業
- くにたち野菜 PR 事業
- 都市間交流事業
- 食のまちづくり推進事業

既存の取組事例

Ⅲ－1 小学校での食育講座

事業概要：
農業体験後に
食育講座を実施、
R2 参加者数　2 クラス 59 名



Ⅲ－2 くにたちオリジナル体操

事業概要：
毎週谷保第四公園で実施
R2 延べ参加者数 1,738 名

Ⅲ－3 城山さとのいえ

事業概要：
「農あるまち　くにたち」の
体験・情報発信施設、
R2 来館者数　20,235 名

Ⅲ－4 旧国立駅舎プレイピアノ

事業概要：一日２回ピアノを自由に弾くことができる時間帯を設定